

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	部	外	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営							
1	(1)		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関・事務所・各棟キッチン内に掲示し職員間で共有している。 利用者様へ日々やりがいを与え生きがいのある暮らしを実践している。			
2	(2)		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでコロナ禍で受け入れ出来なかった近隣中学校の福祉体験学習の受け入れをすることが出来、交流を深めることが出来た。			
3			○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の担当者や他施設の関係者と協力し、キャラバンメイトの活動にて講演をする事で学生や地域の人々へ認知症についての理解や支援方法を伝えている。			
4	(3)		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に一度開催する運びとなり現状報告や意見交換をしサービス向上に活かすことが出来ている。感染症が発生した場合は無理して実施はせず役場と相談し書類での開催にさせていただいている。			
5	(4)		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の「認知症にやさしい町づくり連絡会」のメンバーとして地域包括支援センター職員や他事業所の方々と密に連携している。 運営推進会議に出席いただき情報を提供している。			
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は施錠せずに、敷地内は自由に活動していただいている。外へ出ても一緒に付き添い行動を共にする支援を行っている。身体拘束についての研修を施設内で行っている。			
7			○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居時に自宅での虐待がないか細心の注意を払って見過ごさないようにしている。 「高齢者虐待防止マニュアル」を閲覧し法令や防止するための理解に努めている。研修も実施している。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者様は数名いらっしゃる。弁護士の方、社会福祉士の方と密に連携を図りながら支援を行っている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容は契約締結時前より説明を行っており、不安な事や疑問点は、理解され納得して頂けるよう十分に説明している。加算等が発生する際には、ご家族様へ説明し理解して頂いた上でを行っている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	町内在住のご家族様とは毎月のお支払い時に近況報告やご要望などやり取りを行っている。入居者様の日ごろの様子についてはアルバムを作成し送付している。 遠方のご家族様とはズームや電話、メールでのやり取りで様子を伝えるように努めている。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週ミーティングを行い職員の意見や提案を聞き、迅速な判断をして利用者様への対応に活かしている。 各ユニットの主任が職員の意見を伺い、代表者との話し合いを行っている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の申請により、処遇の改善に努め、向上心をもっていただける職場・環境整備に努めている。また今年度より「働き方改革」委員会を設け職場環境・整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は必要な研修費や職員の配置整備等の指示を行い、研修に参加出来る環境整備に努めている。コロナ禍に於いてはズームを使った研修や内部研修を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者と相互訪問等直接交流する機会が出来なくなっていたが感染対策を行った上で活動を再開したい。ネットワークについて「シズケアかけはし」に加入し主治医や訪問看護と情報共有をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	小規模多機能ホームより入居が決まった方は、事前にグループホームを見学し職員とのコミュニケーションを進め、要望等伺ってから安心して入居していただいている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入より、ご家族様が抱えている不安や困惑を取り除くため要望を伺い、ご本人様に添った生活が出来るよう家族と連携し居室作りを一緒に考えてもらい家族も入居者も安心して生活ができるよう心掛けている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小規模多機能ホームより移られる方が多く、事前に小規模多機能ホームの過ごし方や援助の方法を把握し、移ってから安心して過ごせるように努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事に応じて、食器洗い・お盆拭き・洗濯物畳み・掃除等、それぞれ協力していただく事でより良い関係づくりを築いている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には可能な限り共に支援できる関係づくりを心掛けて例えば必要な物の購入や病院受診などをお願いしている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にされてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にされてきた馴染みの人や場所との関係維持が途切れないよう面会を実施して頂いている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士で話しやすいようにテーブルの席を配慮し、隣りの棟へも行き来しやすく利用者様同士で関わり合えるよう支援している。 お盆拭きや洗濯物たたみは利用者様同士で協力し合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も要請があれば相談や支援に 応じている。入院中の方は病院の相談員より情報 を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり日頃からコミュニケーションを取り日 頃から希望や意向の把握に努めている。またコ ミュニケーションの取れない方についてはご本人 の立場となって検討している。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めてい る	小規模多機能ホームより移動される方について は、引き継ぎによりサービスを断続し、生活歴は ご本人様やご家族様より伺ってこれまで通りに暮 らせるよう努めている。他施設や直接入居され る方については、事前にご自宅を訪問し面談し これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	定時に言動を記録し一人ひとりの把握に努めて いる。 特変事項は更に記録を残し、職員間で共有しケ アの向上に努めている。確認し共有する内容が あれば申し送りやミーティングで詳細の確認を 行っている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞ れの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	日々の生活状況を把握しモニタリングを行ってい る。ご本人様・ご家族様に希望を伺い、ミーテ ィング等で意見やアイデアを出し合ってケアプラン を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動を記録に残し職員間で共有し ている。特変事項はミーティングで話し合い介護 計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対 応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援や サービスの多機能化に取り組んでいる	これまで行ってきた外出支援については現状休 止している。買い物については要望があれば職員 が購入して来ている。歯科、床屋や美容院の 訪問サービスを利用している。感染症の状況を 確認しながら随時再開をしていく予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍に入りこれまで地域資源を活用するために行って来た方法が一変しており、外部との交流が出来ていない現状がある。地域の農家からいちごを取り寄せたりしていちご狩りを楽しむなど工夫して地域資源を活用している。			
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の訪問診療の医師により体調管理を行っている。専門医の受診の指示があれば職員が付き添い受診し、可能な限りご家族様と連携をとっている。 月に2回訪れる訪問看護師とも連携し、急変時は24時間指示を仰げる体制にある。			
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事前にミーティングにて利用者様の状態を話し合い、訪問看護師に伝えている。 小規模多機能ホームの看護師にもグループホームの利用者様について診ていただける環境にある。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪問診療の医師の病院への入院が主なため、入院後も医師や看護師と話しやすい関係になっている。 ホームで出来る事と出来ない事の線引きをしっかりと伝え早期の退院に協力していただいている。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に予め重度化から終末期についてホームで行えることを説明している。 終末期にはターミナル計画書を作成し、今後起こり得る事やホームで出来る事等をご家族様に確認していただいている。			
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の初動の訓練は行えていないが、他職員への応援要請や小規模多機能ホームの看護師への連絡、訪問看護師への連絡は速やかに行い、必要であれば救急搬送を要請している。			
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、屋夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、防火管理者は消防訓練実施報告書を作成し、参加していない職員も指摘事項を共有している。 食料品・水を備蓄し、町の福祉避難所として登録している。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価	外部評価	項目	
		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った言葉かけを心掛けている。 地元の方言を交えての会話で利用者様と打ち解けている。焦らせないような言葉かけを心掛けている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気軽に思いを伝えていただけるよう一人ひとりと信頼関係を築けるよう心掛けている。その中で本人が気軽に希望や相談などを話せる場を作り自己決定できるように働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入浴日や食事・掃除の時間は決まっているが、それ以外の時間は自分のペースで過ごされている。自己決定の意思表示や行動できない方については、職員から要望を伺いご本人の希望になるべく沿うよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は身だしなみを整え不快感がないように支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや切れる方には切っていただいている。一人一人の好みを把握し例えばカレーライスがきらいな方には肉じゃがに変更したりしています。また箸を並べたり下膳やお盆拭き、テーブル拭きとそれぞれの利用者様が「役に立っている」と やりがいを感じていただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。 嚥下の悪い方にはとろみ材でトロミをつけたり、刻み食や食べやすい器にする等工夫している。 好物を用意したり、栄養補助食品を用いて栄養摂取に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中での汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後に口腔ケアを行っている。スポンジやガーゼを使い一人ひとりの状態に合わせてケアを行っている。 月に一度、歯科衛生士の訪問を受けている方もいらっしゃる指導を受けている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残しパターンを把握し、トイレで排泄出来るタイミングを計っている。また立位が困難な方も尿意がある方には介助にてトイレで排泄して頂いている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためオリゴ糖、ヨーグルト、雑穀米を毎日摂取して腸内環境を整えるようにしている。便秘の際は、一人ひとりに添ったやり方で訪問看護師に相談しながら下剤を調整し服用して頂いている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様に希望を伺い時間や順番を決めている。月に一度、季節風呂の担当職員が中心に、お花・香草・果物・お茶等の変り風呂を準備して楽しんでいただいている。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっていないのでテレビを観いたり談話や読書をするなどしてからお休みになっている。エアコンで温度の調整や加湿器を使用して快適な睡眠を促している。また足が浮腫む方には踏み台や挙上して頂くなどして休んで頂いている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボックスにて利用者様の内服薬を管理し職員が共有できるようにしている。薬の変更の際は申し送りを行い、経過観察を行っている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理が出来る方には手伝って頂くことで役割をもって張り合いをもって日々生活できるよう支援している。レクリエーションを皆と一緒に楽しんでいる。利用者様の習字や塗り絵の作品を掲示している。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣には近所の神社へ混む時間を避けて外出している。お天気の良い日はホーム中庭で日光浴や花見をしながら季節を感じて頂いている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金はお持ちいただかないようにしていますが管理能力がありご家族の承諾を得た方はたくさんのお金ではないが所持している方もおり移動販売等を使って頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい場合は事務所に訪れ主に管理者が取り次いでいる。 書ける方には年賀状を送付する支援も行っている。また月に1回、担当職員のご家族への手紙と一緒に希望者にも書いて頂き出している。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレへの動線を分かり易く掲示し、スイッチの位置の掲示も大きく分かり易くしている。使用中の札を用意し、使用後は消臭スプレーを使い他の方に気配りしている。季節感のある掲示物を意識して行っている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテーブル席の他にソファを配置し、テレビを見るだけでなく洗濯物を利用者様同士で置く社交場の役目になっている。玄関や野外にも椅子を用意し好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や寝具を用意していただき本人の違和感を最小限に抑えるようにしている。月日を重ねた利用者様の居室にはホームでの思い出の品で満たされ一人ひとり個性ある居室で生活されている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の戸には利用者様の顔写真と名前を掲示している。トイレのスイッチ等の分かりにくい箇所には大きな表示を出して自力で行えるように工夫している。		